

はじめに

史跡・名勝 飛鳥京跡苑池は、飛鳥川右岸の河岸段丘上に立地する飛鳥時代の庭園遺跡です。平成 11 年に榎原考古学研究所が実施した発掘調査で、はじめてその存在が明らかになりました。

飛鳥京跡苑池は、これまでの発掘調査で、南北 2 つの池（南池・北池）と渡堤、水路、掘立柱建物、掘立柱塀などで構成されることがわかっています。遺跡の範囲は、南北約 280m、東西約 100m です。

平成 22 年度からは、飛鳥京跡苑池の整備にむけ、継続的に発掘調査を実施しています。今回の調査は、北池内の北西部の構造および北池と水路の関係を明らかにすることが目的です。

発掘調査の成果

1. 検出遺構

発掘調査の結果、新たに北池西岸の北部分と北西岸の大部分、池内付属施設の北西部分を検出しました。

西岸 西岸は、長さ約 31m、高さ約 1.8m です。全体に階段状となります。段は 9 段分で、下 3 段（高さ約 0.7m）分が、池内付属施設の構築によって埋没します。その構造は、蹴上げに幅 30～70 cm 大の石材を使用し、長軸方向を横にして立て並べ、踏面に 15～25 cm 大の石材を敷きます。蹴上げの高さは 20 cm 前後、踏面の幅は 40 cm 前後です。石積みから崩落した石材の検出状況から、本来はさらに数段高く積まれていたとみられます。

北西岸 北西岸は、長さ約 17.8m、高さ約 1.1m です。そのうちの約 12.8m 分が階段状となります。段は 7 段分で、下数段（高さ約 0.5m）分が、池内付属施設の構築によって埋没、または除去されたとみられます。直線的に並べた各段の石列を徐々に角度を変えて、全体に湾曲させます。西岸と同様、階段状ですが、その構造は異なります。踏面に 10～30 cm 大の石材と 25～50 cm 大の石材を使用し、大きい石材を外側にして 2 列に敷きます。外側の石材の側面が、蹴上げを兼ねます。蹴上げの高さは 15cm 前後、踏面の幅は 40 cm 前後です。石積みの状況から、西岸と一連の施工と判断できます。石積みから崩落した石材の検出状況から、本来はさらに数段高く積まれていたとみられます。また、当初の石積みは、さらに東までのびていたとみられますが、池内付属施設と南北方向の石積みの構築に伴って東側の石積みが除去されるなど、大きな改変を受けています。

南北方向の石積み 北西岸東端部に位置していて、北岸の西延長線よりも北にのびます。南北方向の石積みは、

長さ 3m 以上、高さ 1m 以上です。全体に階段状となります。段は 5 段以上です。その構造の詳細は、今回の調査では確認できていません。構築時期は、池内付属施設との関係から、7 世紀後半以降と考えられます。なお、南北方向の石積みは、その位置関係から水路に関連する遺構ではないと考えられます。

池内付属施設 池内付属施設は、護岸の裾部に盛土して構築したもので、平坦面と斜面からなります。構築時期は、これまでの調査成果から 7 世紀後半以降と考えられます。北西岸部分では、平坦面から斜面への傾斜変換部に 10～40 cm 大の石材を 1 列に並べます。その長さは、約 12m です。傾斜変換部の石列は、北東端部で北へ約 2m、さらに東へ約 5m のびて、南北方向の石積み南端に取り付きます。平坦面の幅は、最大で約 4.9m で、上面には礫を敷きません。斜面には 5～10 cm 大の礫を敷き、砂利敷きとします。

2. 北池と水路の関係

今回の調査によって、北池と水路の護岸は、一連の石積みで連結しない可能性がさらに高まりました。詳細な関係については、来年度引き続き調査する予定です。

まとめ

今回の調査では、北池の西岸と北西岸、池内付属施設を検出しました。よって、北池の護岸は、南岸と北岸および東岸の大部分がほぼ垂直の石積み、西岸と北西岸および東岸の一部が階段状の石積みであることがわかりました。これにより、北池の平面形が南北に長い方形で、その規模が東西最大約 36m、南北最大約 52m と確定することができました。

池内付属施設は、北池内北東隅の流水施設部を除く、護岸裾部の全体におよぶことがわかりました。北池が築造された 7 世紀中頃の水際は各護岸の裾までおよんでいましたが、7 世紀後半以降の池内付属施設の構築に伴って、その水際は池内付属施設の裾部となり、池の中央部だけに水面があるという景観に変化します。北池における改修は、その景観に大きな影響をおよぼすほど大規模なものであったと考えることができます。

以上、平成 31 年度から実施してきた北池に対する一連の発掘調査によって、北池の規模、護岸や池内各施設の構造、改修や変遷の状況を明らかにすることができました。不明な点の多かった北池の内容をかなり明確化できたといえます。



©TMK-ai
イワミン
奈良県立橿原考古学研究所
マスコットキャラクター

史跡・名勝 飛鳥京跡苑池 第 14 次調査

(飛鳥京跡第 184 次調査) 現地公開資料

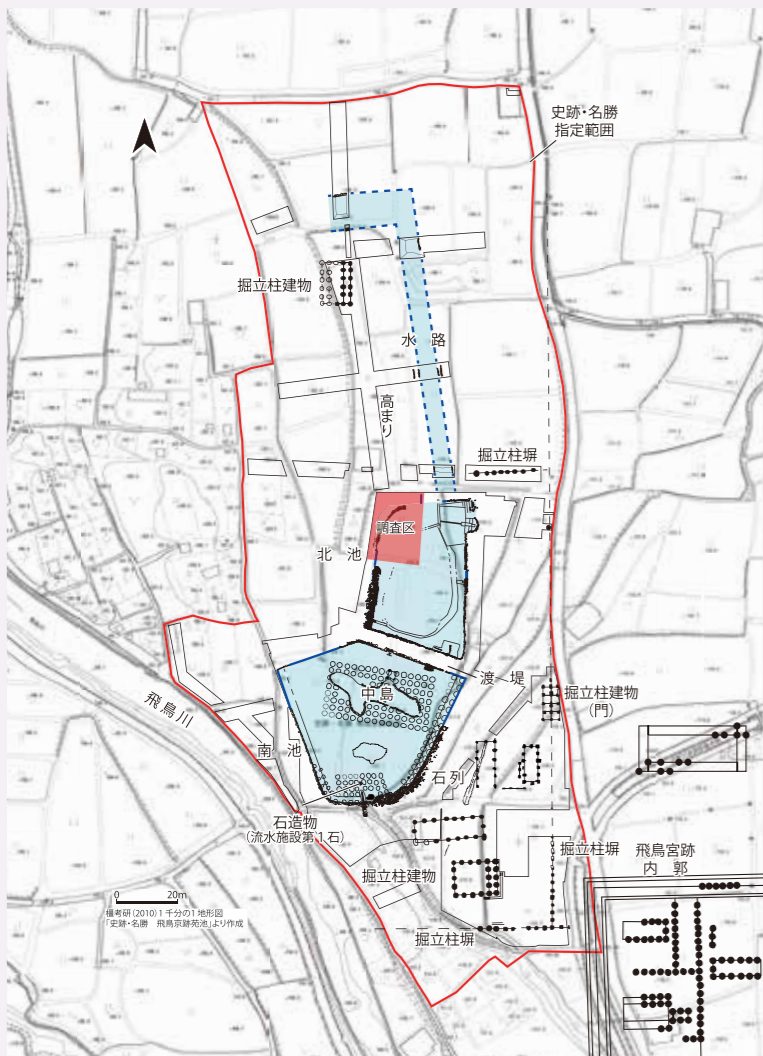
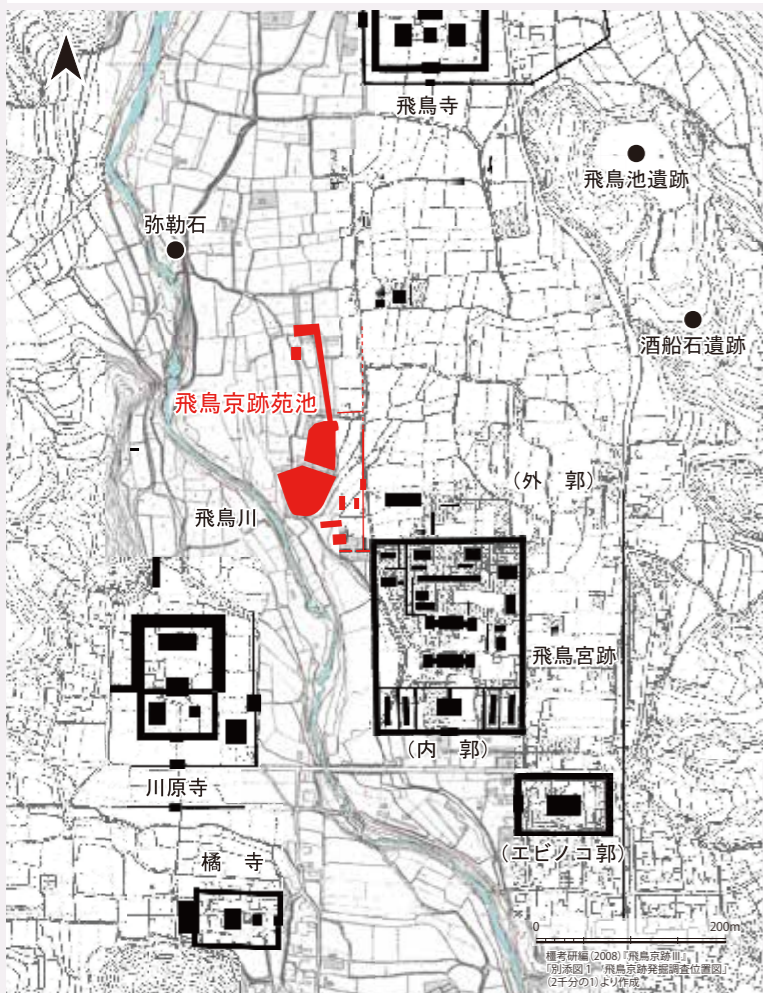
2020 年 10 月 31 日

奈良県立橿原考古学研究所



調査区全景（北東から）





北池合成写真 (上が北)



北池北西部垂直写真 (上が北)

